

県内各地の地域連携教育の取組

第3号となる今回の「C.E.P.O.ニュース」では、県内各地で熱心に進められている地域連携教育の取組についてお伝えします。

県立山口中央高等学校



高等学校の取組は、地域連携教育推進室Webページにある「セポ・レポ・ハイスクール」のコーナーでも紹介しています。

今年度、山口中央高校のコミュニティ・スクール活動推進員(以下「CS活動推進員」)となった阿部正二郎さんの働きかけで、山口中央高校の生徒が地元小中学校と一緒にあいさつ運動を実施しました。6月の下旬、山口中央高校の生徒会とJRC部(ボランティア活動等を行っている部活動)の生徒達が、大内・小鯖協育ネットのネームがプリントされた黄色いビブスを着用し、地域の方々や登校中の生徒にあいさつを届けました。



阿部さんは、大内まちづくり協議会事務局長であるとともに、大内南小学校、大内中学校の学校運営協議会委員、山口市地域学校協働活動推進員として活躍しています。今年度は、山口中央高校のCS活動推進員として、小・中学校のコミュニティ・スクールの仕組みを生かした取組を通じて育まれた児童生徒の「育ち」や「学び」を、地元の高校である山口中央高校につなげるために活動します。



また、山口中央高校では、学校運営協議会からの提案を受け、今年度から「コミスク瓦版」と命名したホワイトボードを生徒の昇降口に設置し、大内・小鯖地域の学校の様子やまちづくりの取組、地元大学のイベントの紹介等を掲示しています。生徒達は、この「コミスク瓦版」を目にすることで、小・中学校での自分自身の育ちを振り返るとともに、未来のまちづくりについて思いを馳せる機会を得ているようでした。



岩国市立錦清流小学校・錦中学校・県立岩国高等学校広瀬分校

「大規模災害の発生時における安全な行動を理解し、その場に応じた安全な対応ができる」ことをねらいとして、「小中高合同避難訓練」（地域住民も参加）が毎年実施されています。

錦清流小学校のグラウンドに児童が避難集合している所に、岩国高校広瀬分校の生徒が合流し、高校生と小学生が手をつないで安全を確保しながら錦中学校に避難します。

訓練後には、消防署職員などの講評が行われ、地域で学ぶ子どもたちが、命を守ることの大切さについて地域住民と共に学んでいます。



（写真は昨年度以前の取組の様子）

地域連携教育の仕組みを生かした合同避難訓練や防災体験学習などの取組が、県内多くの地域で実施されています。



長門市立小中学校・長門市教育委員会・長門市ケーブルテレビ

今年度のはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための臨時休業措置が続きました。そこで、児童生徒の家庭学習支援と健康維持のために、市内の小中学校の教職員と市教委の学校教育課、地域のケーブルテレビが連携・協働し、休校中の児童生徒に配信するための動画を作成しました。

市教委が調整役となり、教職員が教材やシナリオの準備を担当し、動画編集をケーブルテレビが担当しました。それぞれの立場の専門性を生かしながら、児童生徒のために取り組みました。



「連携ありき」ではなく、それぞれの強みを生かした実効性のある地域連携の取組です。地域資源の専門性を生かした連携の工夫は、地域連携教育の更なる充実につながります。



地域連携教育推進室のWebページがリニューアルされました！

山口県の地域連携教育についての情報を多数掲載しています。
下記URLからぜひアクセスしてみてください。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a504002/index/>

※ QRコードを読み取っていただくことで、スマートフォンやタブレット端末からも御覧いただけます。

